関西大学×堺市　連携公開講座




千利休画像（堺市博物館蔵）

～千利休　年譜～

参考：村井康彦『圖説 千利休』（河出書房新社、1989年）

1522年（1）　堺・今市町に生まれる。幼名与四郎。
1540年（19）堺の茶人、北向道陳を介して紹鷗に入門すると伝える。
1574年（47）信長、相国寺にて茶会を催す。宗易・今井宗久・津田宗及、千鳥の香炉を拝見する。
1582年（61）信長、安土城に宗久・宗及・宗易らを招き御幸の間を拝観させる。
1583年（62）近江坂本の羽柴筑前守秀吉茶会に出席。
1585年（64）正親町天皇から利休居士号を勅賜。
1587年（66）秀吉、京都北野天満宮境内で大茶会を開く。
1591年（70）2月23日利休、堺での整居を命じられる。2月28日利休、聚楽第屋敷にて自刃。

第1回　10/26（土）13:30～15:00

「茶の湯　信長・秀吉と利休（与四郎・宗易）」

表千家　茶道家　鈴木　宗卓

名物道具を「名物狩り」と称して茶道具を悦しみ、部下たちに「茶の湯」の関心を高めさせた信長。「鑑賞の茶」から「茶の湯」そのものに入り込んだ秀吉。そして、天下人となった秀吉がお茶頭筆頭として重用した利休。「茶の湯」を政に利用し、これまでとは異なる空間に変化させた彼らは、現代に続く「茶の湯」の基を作ったのでした。本講では、映画『利休にたずねよ』の撮影現場の裏側や、使用した茶器の紹介も交えながら、分かりやすく解説します。

第2回　11/9（土）13:30～15:00

「堺の利休　　－わび茶と黄金の日々－」

堺市立博物館　学芸課長　吉田　豊

堺で生まれ育った利休であるが、簡単な手紙類を除いて彼自身が語った資料はほとんどなく、堺のまちとの関係を示す資料も皆無に近い。イエズス会を代表する宣教師ザビエルが、日本の金銀の大部分が集まるところと言った堺のまちで、なぜ対照的ともいえるわび茶が大成されたのか。その謎に迫りたい。

第3回　11/16（土）13:30～15:00

「茶会記からみた利休茶　　－茶道具をもとに－」

関西大学　文学部教授　長谷　洋一

茶聖・千利休の茶は、堺の津田宗及が記した『天王寺屋会記』や今井宗久『今井宗久茶湯日記抜書』などの茶会記によって知ることができます。茶会記には参加者のほか使われた茶道具などがこまかく記録されています。茶会記にみる茶道具の移り変わりを追いながら利休が命を賭けて求めた「美」について考えてみたいと思います。

関西大学×堺市　連携公開講座　ご案内

申込方法	FAX、E-mail、またはHP申込フォームにて ①希望される講座回 ②郵便番号・住所 ③お名前（ふりがな） ④電話番号 ⑤E-mailアドレス（お持ちの方） をご記入の上、関西大学東京センター「公開講座」係宛てに 10月15日（火）必着でお送りください。 複数の講座を一括でお申し込みいただいても結構です。 講座開催の1週間前頃を目途に参加証を送付いたしますので、 当日ご持参ください。
定員	150名 応募者多数の場合は、抽選にて決定します。 なお、当選者の方のみ参加証をお送りいたします。
受講料	1講座につき500円 代金は受講回ごとに、当日申し受けます。
申込先	FAX　　03-3211-1671 E-mail　ku-tokyo@ml.kandai.jp HP　　http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/
会場	関西大学東京センター 〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー9階 （JR東京駅日本橋口隣接 ・ 東京メトロ大手町駅B7出口直結）
お問合せ・事務局	関西大学東京センター　公開講座事務局　担当　小林 TEL　　03-3211-1670

FAX送信用紙

関西大学東京センター「公開講座」係　宛

ふりがな		希望の講座に〇を記入	
お名前			第1回10月26日（土）
			第2回11月 9日（土）
			第3回11月16日（土）
ご住所	〒　　－		
お電話番号	－　　－		
E-mail	＠		

■個人情報の取扱いについて：ご提供いただきました個人情報は、本公開講座開催に際しての管理・連絡のために使用させていただくとともに、今後関西大学東京センターからのお知らせに使用させていただくことがあります。